

7	西春	清須市立清洲小学校	キタホラ アキコ 北洞 明子
分科会番号	18	分科会名	情報化社会の教育

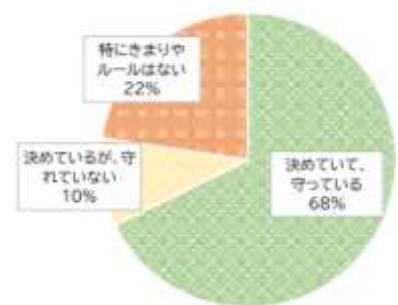
## 情報社会において、自他を大切にすることができる児童の育成 —マイルールづくりを通して—

### 1 主題設定の理由

子どもたちが活躍する未来は、先端技術の開発が進み、IoTやDXにより、ICT機器を日常的に使うことが当たり前の世の中になっていることが予想される。そんな中、GIGAスクール構想のもと、一人一台端末等の環境整備が加速度的に進み、ネット社会が子どもたちにとってさらに身近となった。しかし、インターネットの特性や危険性についての知識が足りず、よくわからないまま使っていて問題が起こることがある。そのため、学校での情報手段を適切に活用できるようにするための学習や情報モラルを身につける学習への期待が高まっている。

そこで、本校の5年生にインターネット接続端末とのかかわりについてアンケートを行った。自分専用のインターネット接続端末(スマートフォン、タブレット、ゲーム機等)の所有率は80%を超えていた。しかし、本学級では、家族とインターネットを使うときのきまり・ルールを決めていない子どもたちは22%おり、決めていても守れていない子どもも10%いた(資料1)。また、インターネットを利用する際に、トラブルにならないように気をつけていない子どもも19%いて、知らずに怪しげなサイトにつながったり、個人情報が出てしまったりしていないかなどの不安を感じたり、トラブルを経験したりしたことがある子どももいることがわかった。

【資料1 家庭でのネット利用の  
きまり・ルールについて】



このような実態から、インターネットの危険性についての正しい知識を身につける必要性を感じた。また、自分も友だちもトラブルに巻き込まれないようにするために、しっかりと守ることができるルールづくりをし、インターネット接続端末とのかかわり方を主体的に考えさせることが必要であると考えた。そこで、情報社会において、自他を大切にすることができる児童の育成をめざし、本主題を設定した。

### 2 研究の仮説

#### 【仮説1】

インターネットの危険性に関する正しい知識を身につけ、ルールの大切さを感じることができれば、ルールについて考えて守ろうとする意欲を高めることができるであろう。

#### 【仮説2】

インターネットでのトラブル事例について、多様な視点で話し合いを行えば、情報社会の中で自分も友だちも大切にしていこうとする子どもたちが育つであろう。

### 3 研究の手だて

#### (1) 仮説1に対する手だて 【ルールづくりへの意欲向上のための実践】

##### ① 「これ知ってる?! ネットクイズ」

インターネットに関する用語や知識について、短時間で行えるクイズを作成し、朝の会などで継続的に行い、特性や危険性に関する基礎知識の習得をはかる。

## ② 学級活動「マイルールづくり」

自分のインターネット接続機器との付き合い方を振り返り、その付き合い方が抱える問題点を資料や動画を見て話し合い、自分に必要十分なルールを考えさせる。

### (2) 仮説2に対する手だて 【多様な視点を獲得するための実践】

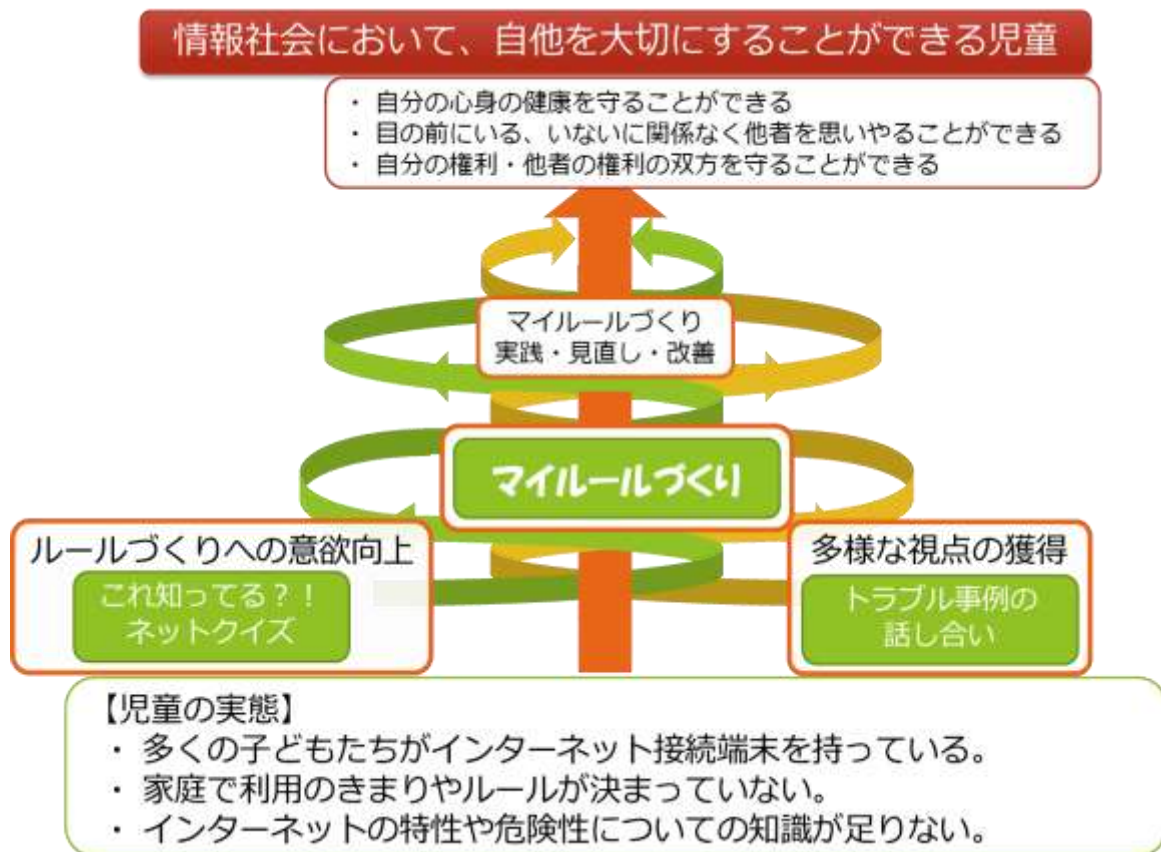
#### ① トラブル事例の話し合い

SNSでのトラブルや個人情報の取り扱いなどに関する話題を、道徳や総合の授業で取り上げ、多様な視点から問題の原因や対処方法について話し合いを行う。

#### ② 「マイルール」の振り返り

自分の考えた「マイルール」を実践し、その達成度を振り返り、どうしたら守れるルールになるか、今の自分に必要なルールは何かを話し合い、よりよいものに改善していく。

## 4 研究構想図



## 5 研究の実際

### (1) 仮説1に対する手だて 【ルールづくりへの意欲向上のための実践】

#### ① 「これ知ってる?! ネットクイズ」

ロイロノート・スクール（株式会社 LoiLo、以下「ロイロノート」と表記）のテスト機能を使用し、「個人情報」や「ネット犯罪」、「アプリ」、「Wi-Fi」などのテーマごとに10問程度の簡単なクイズを作成し、月に1回程度の頻度で実施した（資料2）。クイズ形式であるということで、「次のクイズは何か」と楽しんで取り組んでいたが、毎回、子どもたち自身が思うより低い正答率であった。クイズ後に書かせた感想でも、「大体は知っていると思っていたのに、結構間違っていた」などの記述があり、結果に対する驚きが多かった。また、「自分が思っていたことが全然違って、怖くなった」と危機

#### 【資料2 ネットクイズの結果】



感をもったり、問題ごとに付けた解説を読んで「これからは、しっかりと知っていききたい」「〇〇を確かめてから使っていきたい」と使い方を見直そうとしたりする記述がみられた。

## ② 学級活動「マイルールづくり」

学級活動では、行政機関の動画やNHK for schoolの「スマホ・リアル・ストーリー」や「アッ！とメディア」の動画を視聴し、主人公の問題となる行動について考えを深め、「ネット依存」「個人情報」「非対面コミュニケーション」「情報の真偽」の4つのテーマについて、マイルールづくりを行った。

ネット依存に関して取り上げた授業では、行政機関の動画「ゲームに夢中になると…」を用いた。視聴している間は、「こんなことを自分はしていない」と言いながらも主人公のよくない行動やその原因を積極的に探す様子がみられた。その後、ネット依存とは何か、インターネット接続端末を使うことによる健康への影響、主人公の行動はなぜよくないのか、どうしたらよくなるのかを学習した後に、自分の生活に合った「マイルールづくり」を行った。ロイロノートの思考ツールのクラゲチャートを用いて個人の考えを書き出し、互いに見せ合いながら友だちの意見を集め、今の自分に必要な「マイルール」を取捨選択した(資料3)。自分はネット依存やゲーム依存にはならないと他人事のようにとらえていた子どもたちもさまざまな健康に対する影響について学んだことで、「使用時間を決め、それを守るために家族が見ているところで使ったり、タイマーをかけたりする」というような守るための工夫を付け加えたルールや、「使っているときの姿勢に気を付ける」「睡眠時間をしっかりとる」のように多様な視点からルールの内容や必要性を考える姿がみられた。

【資料3 児童の考えたマイルール】



ネット上の情報の真偽に関して取り上げた授業では、NHK for school「アッ！とメディア～@media～」の「そのニュース広めて大丈夫？ ～フェイクニュース～」を使って授業を行った。動画視聴後に、ネット上の情報の真偽やフェイクニュースに関する知識を学び、「よいフェイクニュースはあるのか」について話し合いを行った(資料4)。「人を楽しませる目的ならあり」「誰かを傷つけてしまうかもしれないからなし」とそれぞれがフェイクニュースに対してどのようにとらえているかの立場が明らかになり、「このくらいは問題ない」と考えている範

【資料4 フェイクニュースに対する児童の意見】



囲に大きな違いがあることに驚きを見せる子どもたちが多かった。そして、「いろんな人がいることをわかってつくっているなら」や「必ずウソと書くなら」など発信側に条件が必要になるという意見が出た。また、誰もが発信できる時代だからこそ、受け取る側が情報の真偽を正しく判断していくことも大切であるという意見も出た。そこで、今の自分たちに必要な「マイルール」を考えた。「最後まで見たり、読んだりしてから判断する」や「発信元を確認する」、「すぐに広めない」、「初めて知った情報は、他のサイトなどでも確認する」など発信側、受信側双方の立場になることを自覚してルールを考えることができた。

## (2) 仮説2に対する手だて 【多様な視点を獲得するための実践】

### ① トラブル事例の話し合い

トラブル事例に関する話し合いでは、道徳の教科書に掲載されている話やNHK for schoolの「スマホ・リアル・ストーリー」の動画から子どもたちに身近なトラブルを選び、それぞれの立場でどのように感じるのかについて話し合いを行った。自分はあまり気にならないトラブルをととても深刻に考える友だちもいることを知り、思い込みで判断していくことが危険につながると感じる様子がみられた。

その後、今まで学習してきた知識をもとに、愛知県警察作成の「サイバーポリスゲーム」を行った。グループ内を2つのチームに分けて、マスに書かれた内容や問題発生カード、クイズカードの内容をチームの仲間と話し合いながら進めた。一つ一つの問題に今の自分ができることや事前にどんな防止策があるのかを友だちの意見を聞きながらじっくりと考えている姿がみられた。また、相手チームの考えた解答で危険を防ぐことができなと感じた場合は、こんなことも気をつけないといけないと教え合ったり、自分はこう感じるなどと伝え合ったりする姿もみられた(資料5)。感想を聞くと、「コースが短いからすぐにゴールできると思ったけど、学んできたことのはずなのに知らないことが出てきてゴールできなかった」「答えが足りない!となって、知っているつもりだったのに困った」と答えたが、楽しそうに取り組んでいた。

#### 【資料5 児童のゲームの感想】

「ゲームのパスワードを勝手に使われて、アイテムが盗まれる」と言う問題で、パスワードを使われないようにするには、パスワードを長くする・英語の大文字、小文字、数字、記号を使い、複雑にするという方法がありました。私は、バレないと思うけれど、長すぎて自分も覚えられなさそうだなと思いました。  
5つの約束では、②自分の情報を教えない④人のパスワードなどを勝手に使わない③困ったことが起きたらすぐに大人に相談するが当てはまりました。

### ② 「マイルール」の振り返り

各回の「マイルールづくり」後に、考えた内容から各自が重点的に取り組むルールを1～3つに厳選し、1か月程度過ぎた頃に、自分が考えた「マイルール」の振り返りを行った(資料6)。守るための工夫を加えたルールを作成していたため、多くの子どもたちが守ろうとしていたようだが、実際にはできなかったという振り返りも多かった。そこで、なぜ守れたのか、なぜ守れなかったのかを意見交換し、今の自分に必要なルールは何か、どのようにしたら守ることができるのかなどの考えを深めた。

#### 【資料6 「マイルール」の振り返り】

1か月後	
少しまもれはかたか	
らいしきして生活	
したい	👉これからがんばろう!

また、夏休み・冬休みの長期休暇前には、今までの取り組みでうまくいかなかったこともふまえて、「〇〇するときの十か条」として10個の「マイルール」を決めて取り組んだ(資料7)。

#### 【資料7 児童の考えた十か条の一部】

【タブレットを使う】ときの十か条	
一、夜の9時いこうは使わない	X
二、30分使ったら30分休けいする	X

「宿題などやることを終わらせてから使う」や「勉強をする時には、スマホを自分から遠い場所に置いておく」、「インターネットで調べ物をするときには、発信元をしっかりと確認する」などと自分の生活に合わせた具体的なルールを考えた子どもが多くいた。長期休暇後に振り返りを行うと、「〇〇はしっかりと守れた」や「守れなかったこともあるけど、使い方に気を付けて規則正しい生活はできた」など、多くの子どもたちが意識して取り組むことができていた。そして、「できなかったことは、これからは守れるように気を付けていきたい」「ルールを意識できたから、平日頃から忘れないようにしたい」と自分の生活を見直そうとする意欲が感じられる記述がみられた。

## 6 研究の成果

### (1) 仮説 1 に対する手だて

子どもたちは当たり前のようにインターネット接続端末を使い、たくさんの情報にふれているため、いろいろなことを知っているつもりでいた。しかし、「これ知ってる?! ネットクイズ」では、多くの子どもたちが実際には正しい情報を知る機会はほとんどなかったと実感することになった。そして、自分が知っているつもりになっていたことを自覚し、正しく使わないといけないという危機感を持ち、自分も友だちも守っていくために知ることが大切であることに気付く様子が多くみられた。ゆえに、情報を正しく知って、正しく使うということに気を付けていくための素地を形成するきっかけになったと考える。

「マイルールづくり」では、各テーマについて問題点を見つけ、どのような課題や対処法があるかを学び、自分に必要な「マイルール」を具体的に考えることができた。友だちとの話し合いの中で、自分と異なるアプローチで自他を守るためのルールを考えていることを知り、今の自分にとって本当に必要なルールや守ることができるルールとは何かという考えを深める様子がみられた。よって、「どんな場面で何に気を付けるべきか」や「どう気を付けていくとよいのか」ということを具体的に考える基礎を身につけ、ルールについて考えて守ろうとする意欲を高めることができたと考える。また、授業後の学校生活の中で、写真を撮影する前に「写り込むけど、いい?」と声をかける様子やインターネットで調べ学習するときにその情報は本当に正しいのか複数の情報を比べる様子などもみられるようになった。

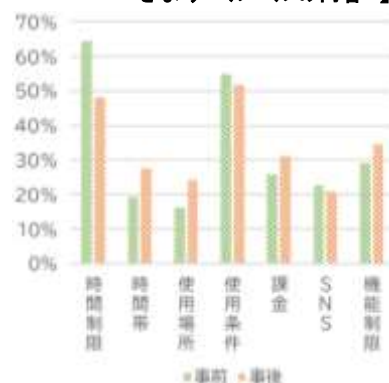
事後アンケートで家庭でのネット利用のきまり・ルールについて問うと、きまりやルールを決めていない児童の割合はあまり変わらないものの、決めていない児童の多くも「ルールとして決めてはいないけど意識している」と話していた(資料8)。また、使う時間帯や場所に関するルールや課金に関するルールが増加した(資料9)。これは、子どもたち自身がネット依存や課金トラブルを身近なものと感じ、防ぐために必要なルールを具体的に考えた結果であると考えられる。フィルタリングや機能制限に関するルールも増加したが、マイルールを決めた後にワークシートを持ち帰って実践したことで、家庭での関心が高まり、ルールの必要性を実感した結果ではないかと思う。

このことから、仮説 1 に対する手だて「ルールづくりへの意欲向上のための実践」は、インターネットの危険性に関する正しい知識を身につけ、ルールの大切さを感じることができ、ルールについて考えて守ろうとする意欲を高めることに有効だったと考

【資料 8 事後アンケートより  
家庭でのネット利用のきまり・ルール】



【資料 9 事後アンケートより  
きまり・ルールの内容】



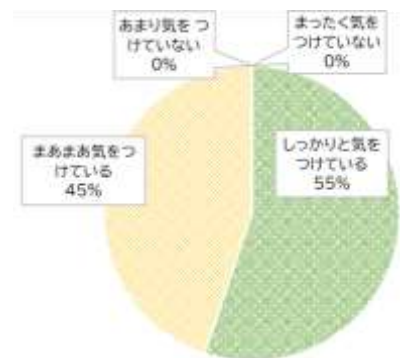
える。

## (2) 仮説2に対する手だて

「トラブル事例の話し合い」では、トラブルが起きた原因やその結果としてどのような問題が生じるか、自分はどのように感じているのかなどを具体的に伝える姿がみられた。話し合いを通して、立場の違いによる感じ方やとらえ方の違いだけでなく、同じ立場だとしても個人差による違いが大きくあることを理解し、共感することができた。インターネット上でかかわる相手や友だちに対する思いやりをもちながら解決や未然防止をしていくための方法を多様な視点で考えることができたと考える。

「マイルール」の振り返りでは、初めは「守れなかった」と書いていた子どもも「次は守りたい」と意欲をもち、守れた友だちの話の聞き、どのようにすると守れるかを考える姿がみられた。そして、徐々に守ることができたという振り返りを書く児童が増えてきた。事後アンケートでインターネットを利用する際に、トラブルにならないように気をつけているかを尋ねると、しっかりと気をつけている子どもが55%、まあまあ気をつけている子どもが45%となり、気をつけていないと答える子どもはいなかった(資料10)。ゆえに、自他を守ろうとする意識の高まりがあったと考えられる。

【資料10 事後アンケートより  
トラブル防止への意識】



このことから、仮説2に対する手だて「多様な視点を獲得するための実践」は、トラブル事例やルールについて多様な視点で話し合いを行うことで、情報社会の中で、自分で考えて、自分も友だちも大切にしていこうとする気持ちを育むことができたと考える。

## 7 研究の課題

本研究を通して、情報社会の中で与えられたものだけをそのまま鵜呑みにするのではなく、ある程度の正しい知識を身につけ、自他を大切にしようとする児童の育成ができたと考える。しかし、インターネット接続端末とのかかわりは、学校だけでは目が行き届かず、本当の成果をすぐに評価することが難しい。子どもたちを取り巻く環境も瞬く間に変化し、新しい技術が次から次へと生み出されるため、これまで考えられなかったような新たなトラブルが起きることも想定される。指導するための時間の確保の難しさもあるが、授業で取り上げるとよい内容が変化し、自他を守るための行動も多様で複雑になっている。実際にトラブル事例として授業で扱うときには、すでに関連したトラブルが発生していて事後指導となってしまいうこともあった。また、授業で取り組んだ内容を家庭で話題にしやすいようにワークシートに使用した動画の二次元バーコードを添付したり、コメント欄をつくったりしたが、各家庭の考え方があり、家庭との連携の難しさも感じた。これらの課題をふまえて、今後も子どもたちが成長の中で、自分で考え、正しい知識を得て、判断して、自分や友だちの心や体の健康、権利を守り、他者を思いやることができる土台となるような指導をこれからも継続していきたい。

## 8 参考文献

- \* 竹内和雄 『スマホ・ネット基礎・基本ワーク』 学事出版(2020)
- \* 今度珠美・稲垣俊介 『情報モラルの授業2.0』 日本標準(2019)
- \* 清川輝基 『GIGAスクール時代のスマホ・ゲーム・ネットリテラシー授業』 少年写真新聞社(2021)